

2．帯広市の地域特性と新エネルギー導入の必要性

2 - 1．帯広市の地域特性

(1) 自然的な条件

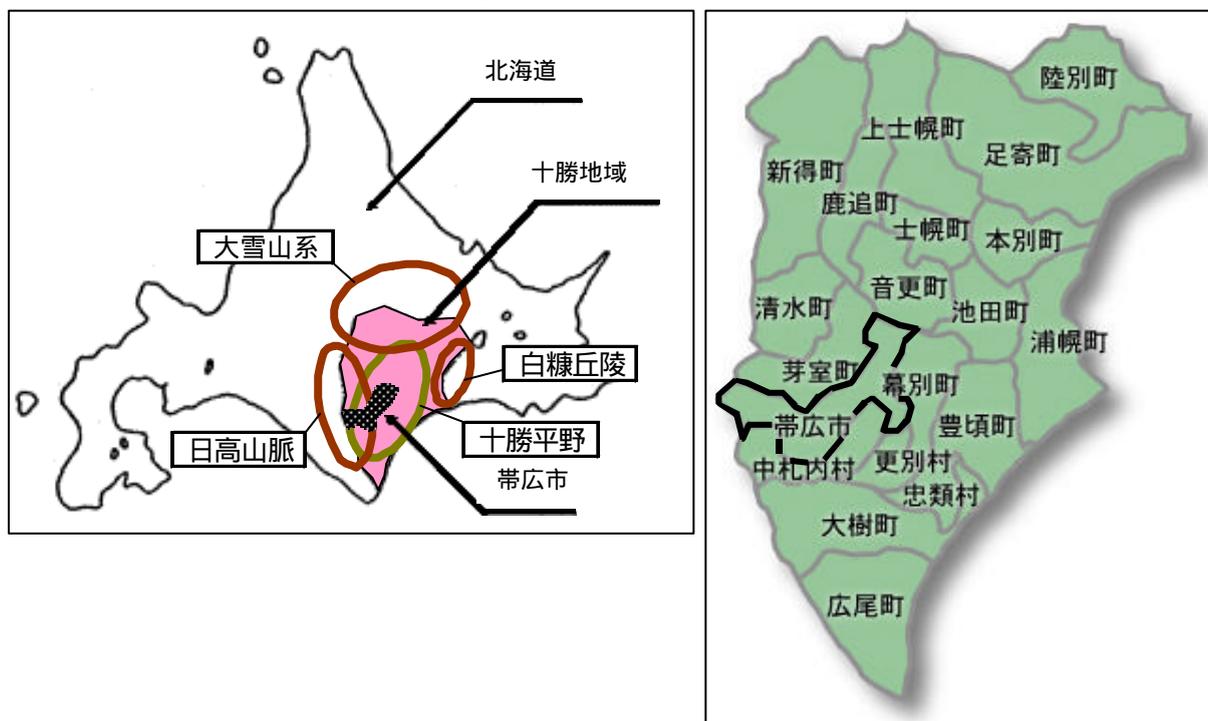
位置・地勢

帯広市は、北は大雪山系、西は日高山脈、東は白糠丘陵に囲まれた十勝平野の中心に位置する。面積は 618.94k m²で、市街地は北に集中し、十勝川と札内川にはさまれた北東の一角に形成されている。南は大規模畑作地帯が続き、南西は山岳地帯となっている。

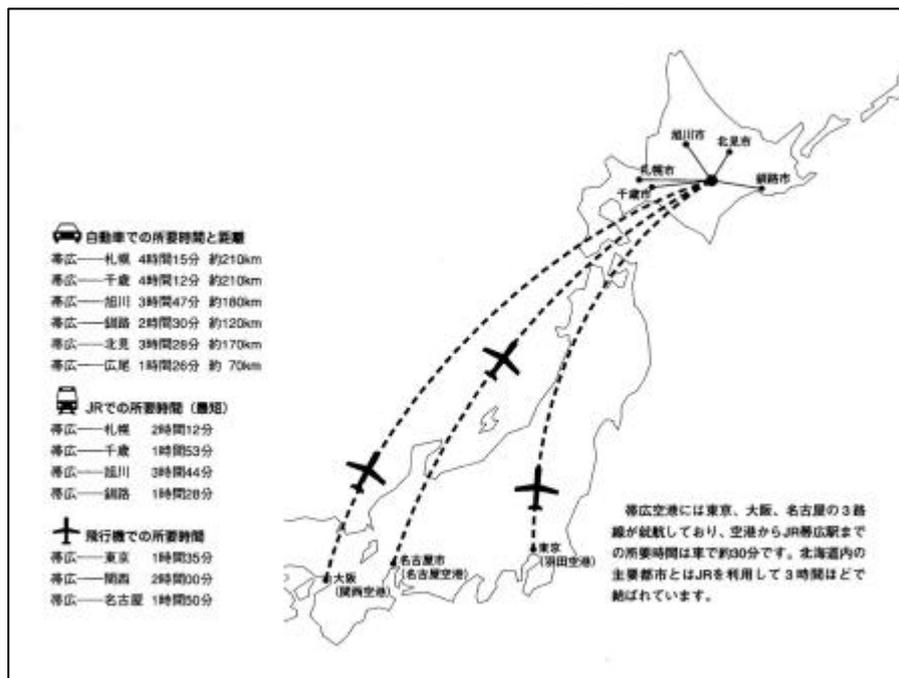
大陸性気候で夏冬の寒暖の差が激しく、夏は 30 を超え、冬はマイナス 20 を下回る。また、全国的にも屈指の日照時間に恵まれている。

広域交通アクセスは、札幌まで車で（約 210km）4 時間 15 分、JR で 2 時間 12 分、東京までは飛行機で 1 時間 35 分の位置にある。近年、道東自動車道、十勝清水・池田間の開通により、広域交通の利便性がさらに高まった。十勝の中核都市として都市機能が集積し、文化・情報の発信地としての役割を担っている。

図表 - 帯広市の位置

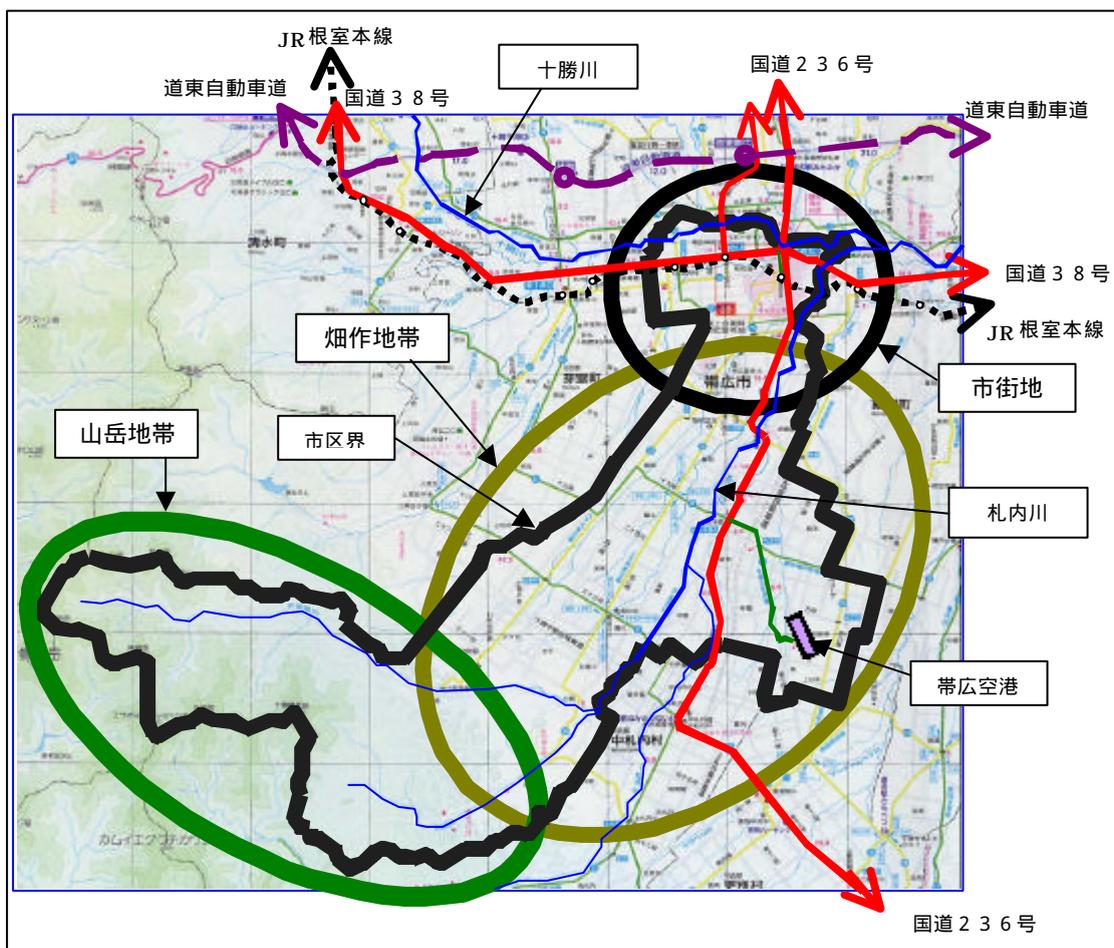


図表 - 帯広市へのアクセス



出所：帯広市「市勢要覧」

図表 - 帯広市の圏域構造

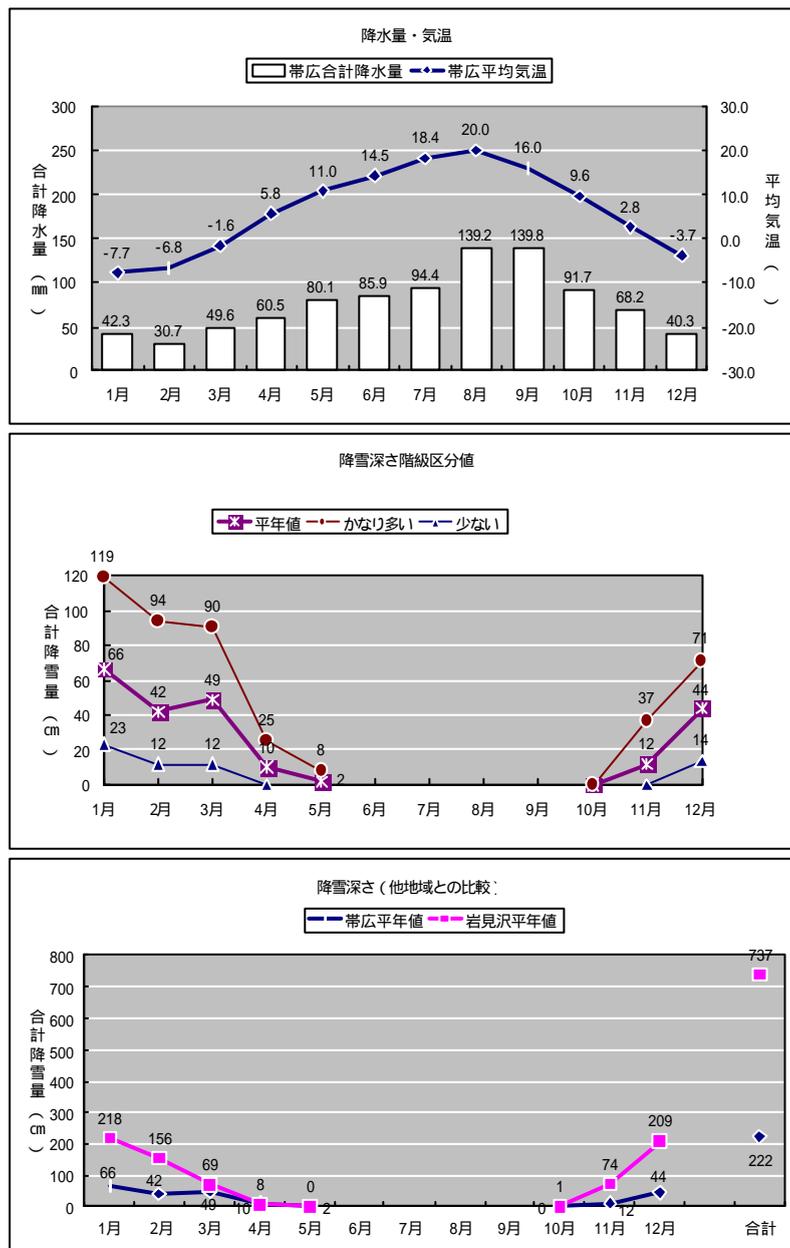


気候

平均気温の平年値（1971～2000年）は、最高で20.0、最低でマイナス7.7を示し、夏冬の寒暖の差が激しい内陸性気候を示す。平成12年の最高気温は8月の34.6、最低気温は1月のマイナス26.7となっている。

降水量は8～9月をピークとし春から秋にかけて多く、冬は少ない。年間降雪量合計は、豪雪地域の岩見沢に比べ約3分の1の222cmである。降雪量は階級区分値では「かなり多い」月で119cmであるが、「平年値」にして66cmであり、近年の多雪状況は希なものと言える。

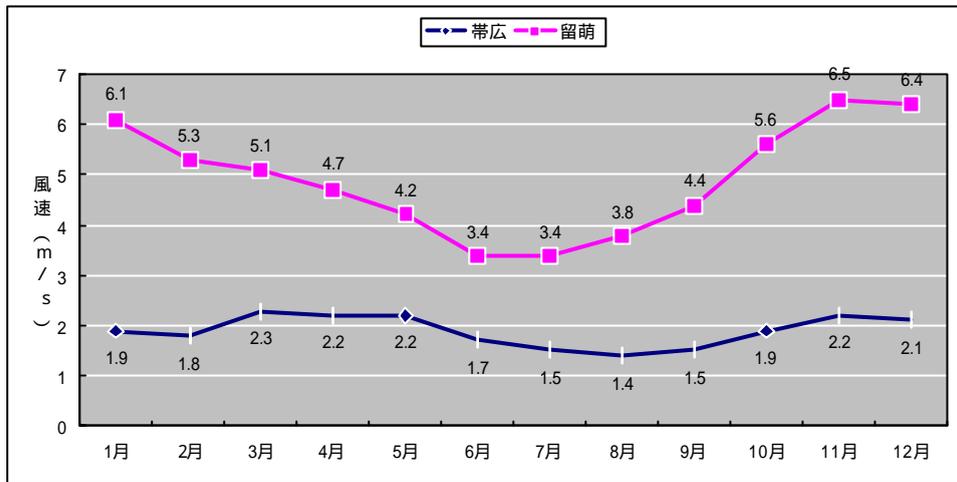
図表 - 降水量・気温・降雪深さの平年値（1971～2000年）



出所：(財)気象業務支援センター「平年値」より作成

年間平均風速の平年値（1979～1990年）は1.9m/s、最高で2.3m/s、最低で1.4m/sと弱。風速の強い留萌の年平均風速4.9m/sと比べると、約4割程度である。

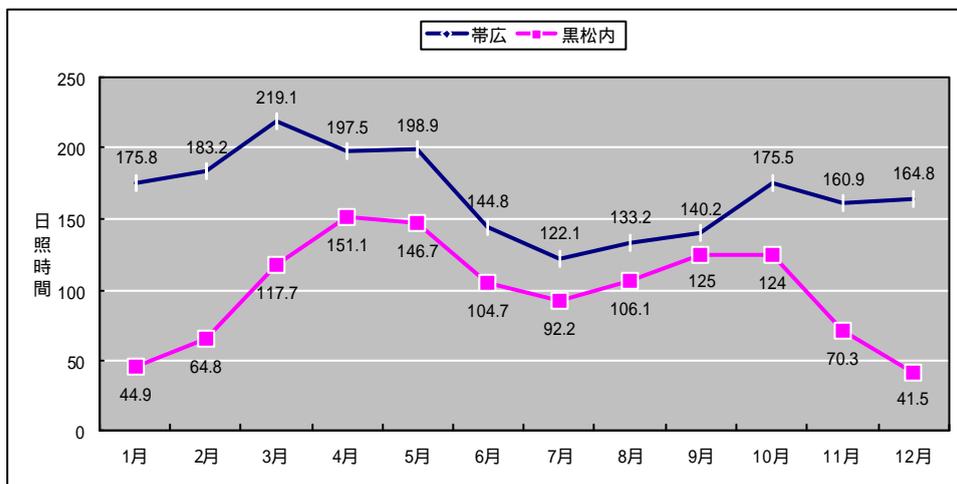
図表 - 平均風速平年値（1979～1990年）



出所：(財)日本気象協会北海道本部「北海道のアメダス統計 1992年版」より作成

日照時間の平年値（1971～2000年）は、2016時間と全国的に見て多く、3月の219.1時間をはじめとした冬期月間が特に多い。日照時間の短い黒松内（1192時間）と比べると、約1.7倍となる。

図表 - 日照時間平年値（1971～2000年）



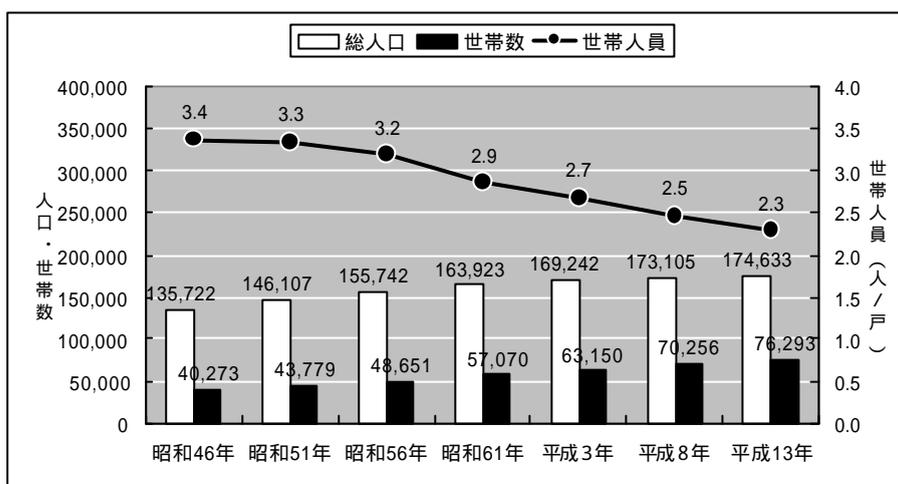
出所：(財)気象業務支援センター「平年値」より作成

(2) 社会的な条件

人口動態

人口は増加傾向にあり、平成13年9月現在で174,633人であるが、伸び率は徐々に鈍化する傾向にある。世帯数も増加傾向にあり、平成13年9月現在で76,239世帯であるが、世帯人員は減少傾向にあり、平成13年9月現在で2.3人/戸となっている。人口構成の高齢化(後述)から見て、核家族化と高齢者世帯の増加が推測される。

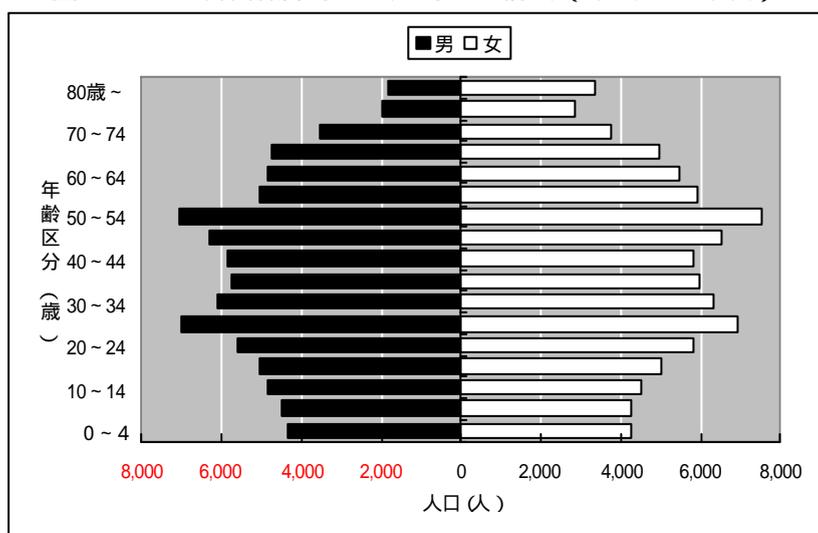
図表 - 人口・世帯数・世帯人員



出所：「帯広市統計書(国勢調査、住民登録人口)」より作成

年齢階層別人口は、20歳未満の人口が少ない。

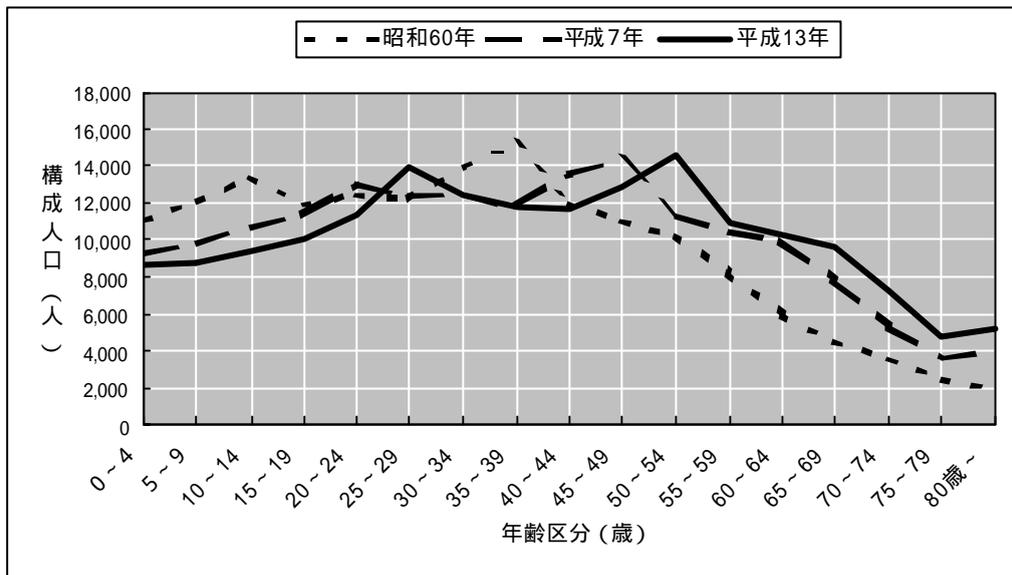
図表 - 年齢階層別・男女別人口構成(平成13年度)



出所：帯広市調べより作成

昭和 60 年から平成 13 年にかけての年齢階層構成人口の推移から見て、高齢化の傾向にある。

図表 - 年齢階層別構成人口の推移



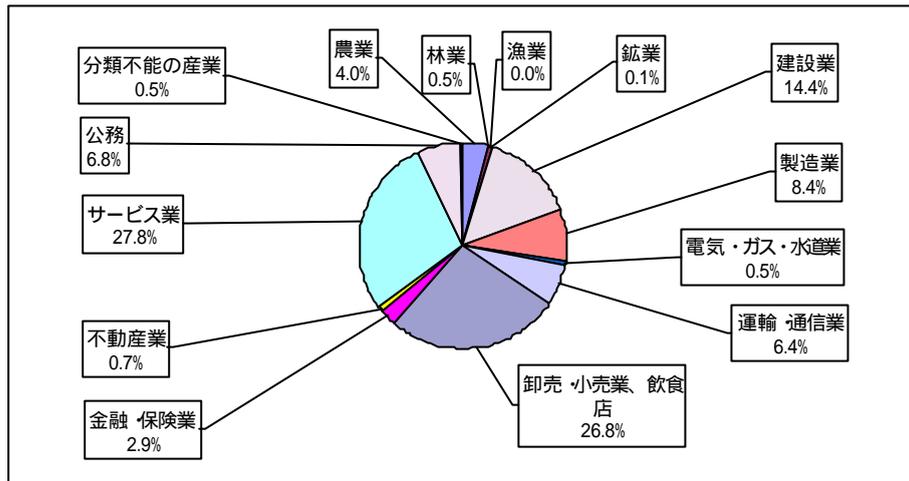
出所：「国勢調査」(昭和 60 年、平成 7 年)、帯広市調べ(平成 13 年)より作成

産業構造

）就業人口

平成7年度における産業別就業人口を見ると、「サービス業」(27.8%)と「卸売・小売業、飲食店」(26.8%)の割合が大きく、次いで「建設業」(14.4%)、「製造業」(8.4%)、「公務」(6.8%)、「運輸・通信業」(6.4%)、「農業」(4.0%)の順となっている。

図表 - 産業別就業人口構成比(平成7年)

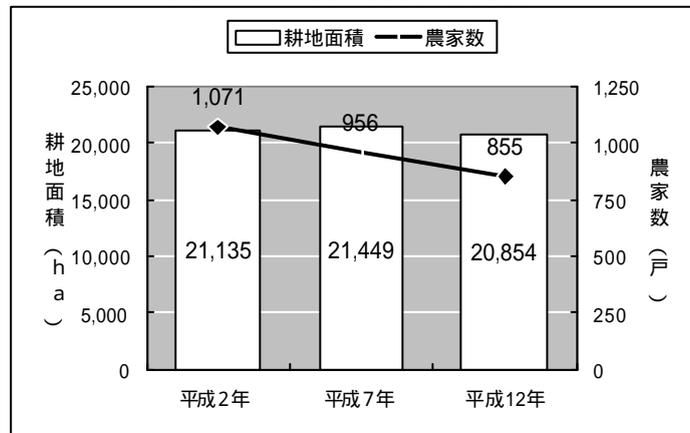


出所：「国勢調査」より作成

）農業

耕地面積、農家数ともに減少傾向にあり、平成12年では耕地面積 20,854ha、農家数 855 戸である。

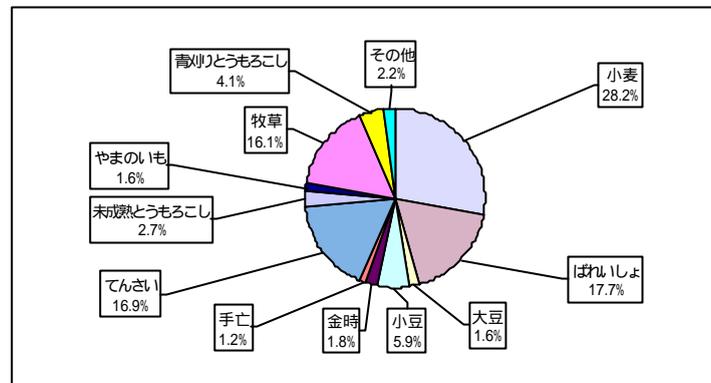
図表 - 耕地面積・農家数



出所：「北海道農業基本台帳」より作成

平成 11 年度における主要作物を見ると、「小麦 (28.2%)」の耕地面積が大きく、次いで「ばれいしょ (17.7%)」「てんさい (16.9%)」「牧草 (16.1%)」、「大豆」「小豆」「金時」「手亡」の豆類 (10.5%) の順となる。

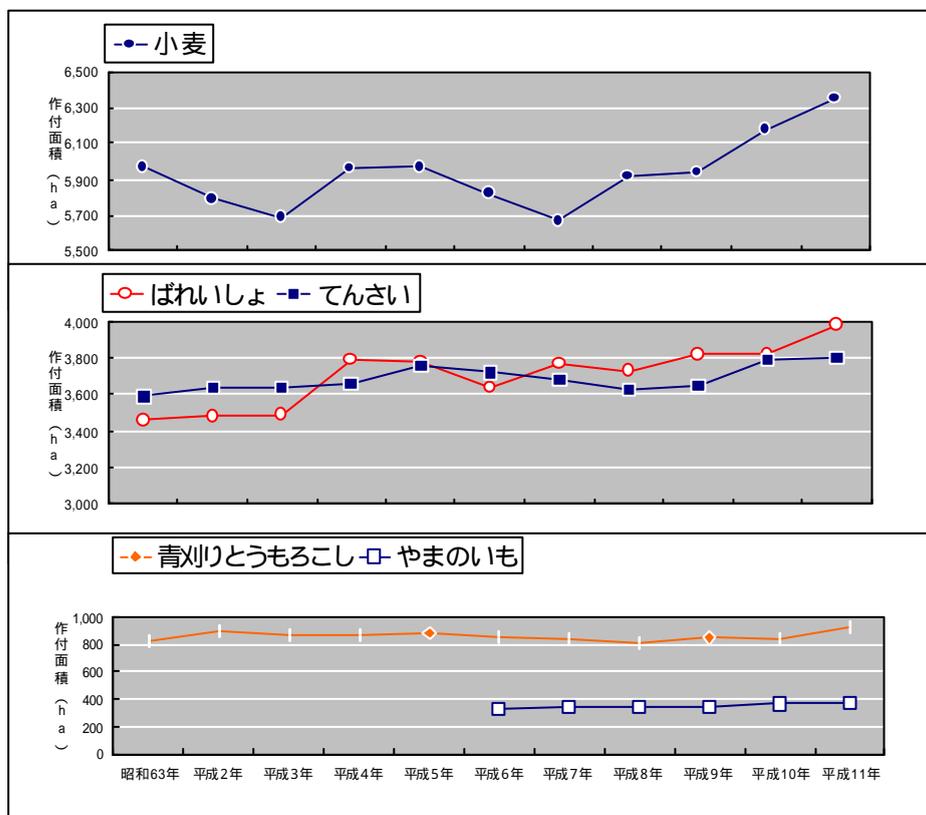
図表 - 主要農産物耕地面積 (平成 11 年)



出所：「北海道農林水産統計年報」より作成

「小麦」「ばれいしょ」は、ここ数年の増加傾向が目立つ。「てんさい」「青刈りとうもろこし」「やまのいも」は、ここ数年緩やかではあるが増加傾向を示す。尚、帯広において「やまのいも」に分類される作物は、そのほとんどが「ながいも」である。

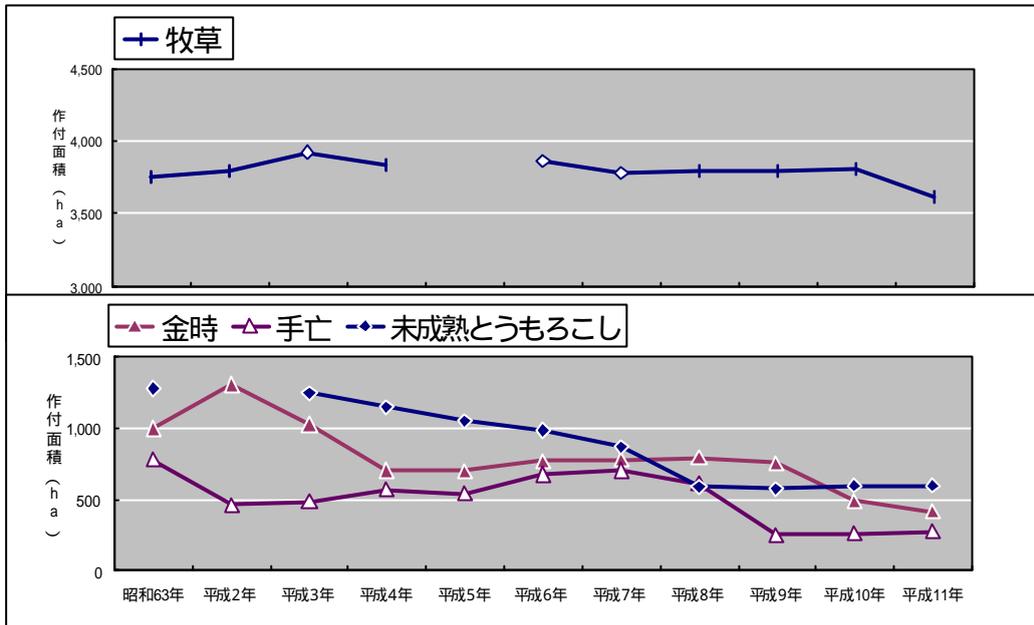
図表 - 耕地面積が増加傾向にある作物



出所：「北海道農林水産統計年報」より作成

「牧草」「金時」は近年減少が見られる。また、「手亡」「未成熟とうもろこし」は、ここ数年の間に目立つ減少が起きている。

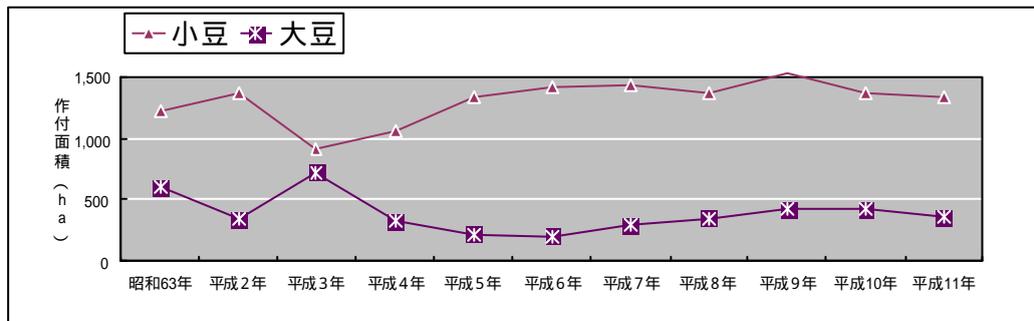
図表 - 耕地面積が減少傾向にある作物



出所：「北海道農林水産統計年報」より作成

「小豆」「大豆」はここ数年あまり大きな変化が見られない。

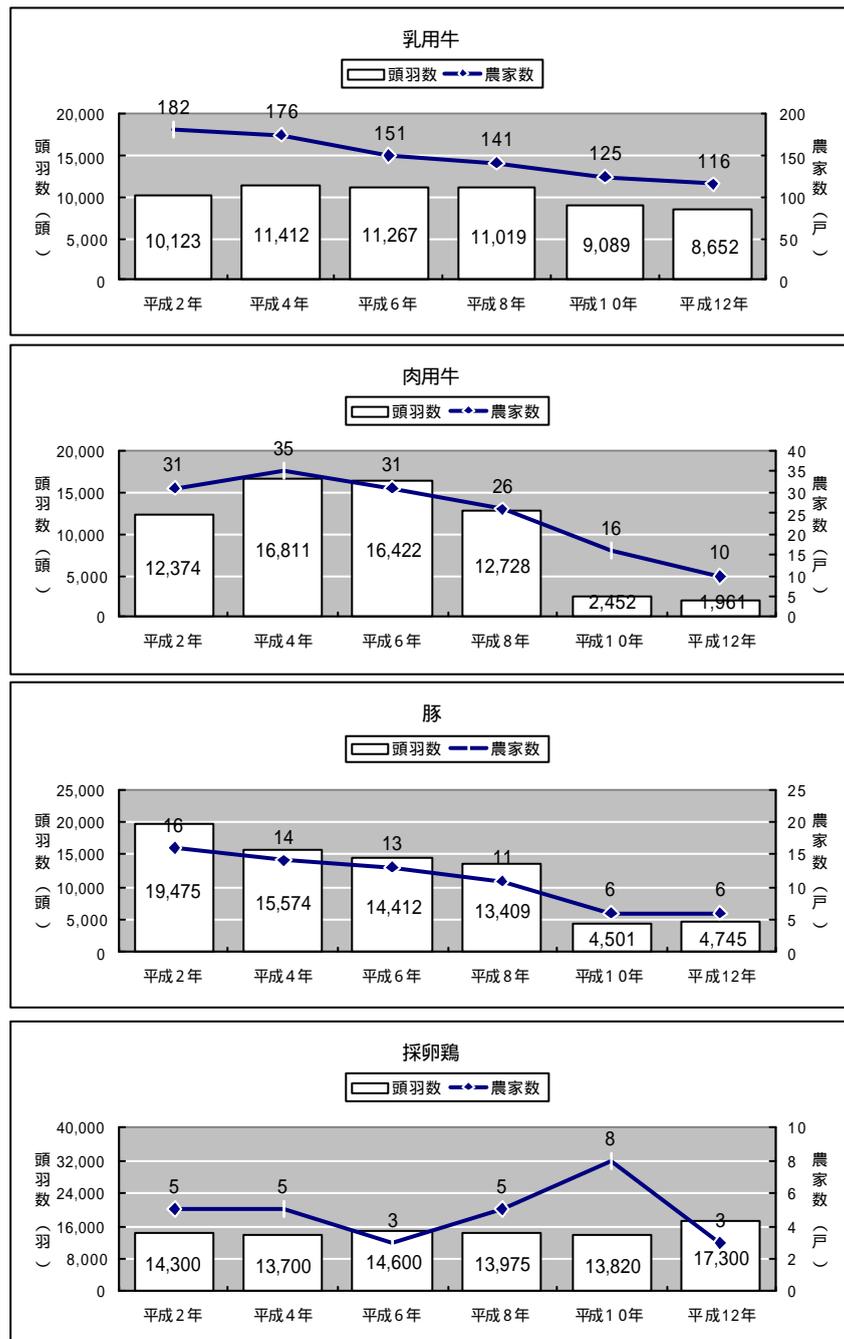
図表 - ここ数年はあまり大きな耕地面積の変化がない作物



出所：「北海道農林水産統計年報」より作成

平成12年の飼養農家数を見ると、「乳用牛」(116戸)が最も多く、次いで「肉用牛」(10戸)、「豚」(6戸)、「採卵鶏」(3戸)の順となる。「乳用牛」は、農家数、頭数ともに緩やかな減少傾向が見られ、平成12年では8,652頭である。「肉用牛」は、農家数、頭数ともに近年大きく減少し、平成12年では1,961頭である。「豚」も、農家数、頭数ともに近年大きく減少し、平成12年では4,745頭である。「採卵鶏」は、農家数に変動があるものの羽数はほぼ1万4千羽前後であったが、平成12年には17,300羽と増加しており、飼養農家数が減少しているため、集約化の傾向がうかがわれる。

図表 - 家畜頭羽数・飼養農家数の推移

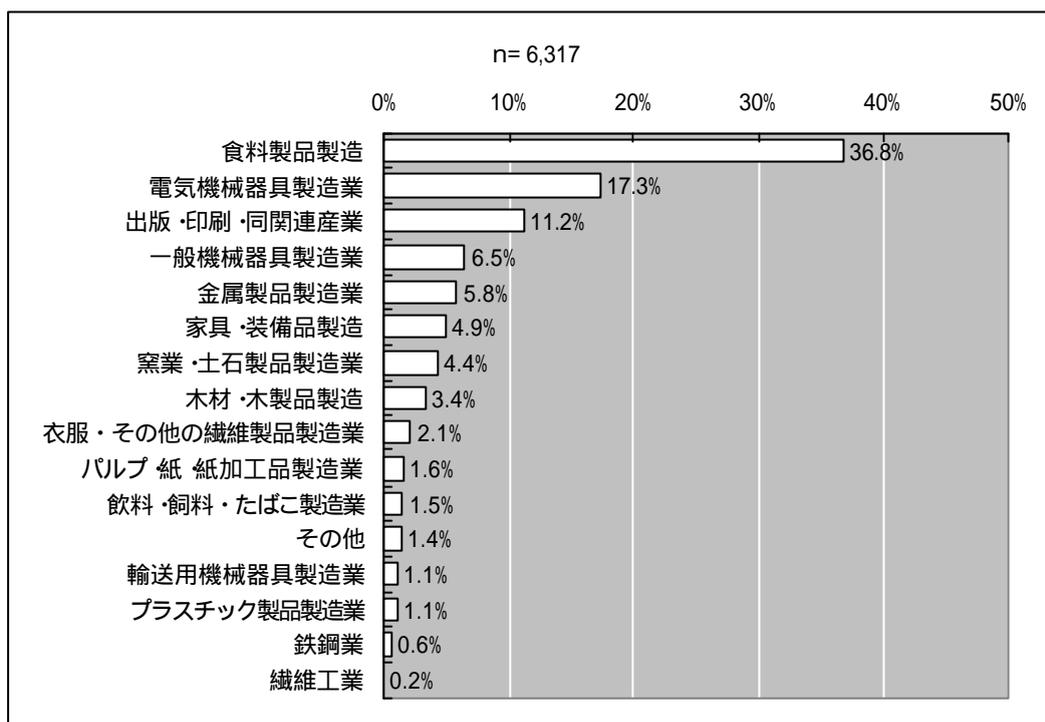


出所：「北海道農林水産統計年報」より作成

) 製造業

平成 11 年度における従業員構成比を見ると、「食料品製造業 (36.8%)」「電気機械器具製造業 (17.3%)」「出版・印刷・同関連産業 (11.2%)」が多い。以下主なものは「一般機械器具製造業 (6.5%)」「金属製品製造業(5.8%)」「家具・装備品製造業(4.9%)」「窯業・土石製品製造業(4.4%)」「木材・木製品製造 (3.4%)」「衣服・その他の繊維製品製造業 (2.1%)」と続く。

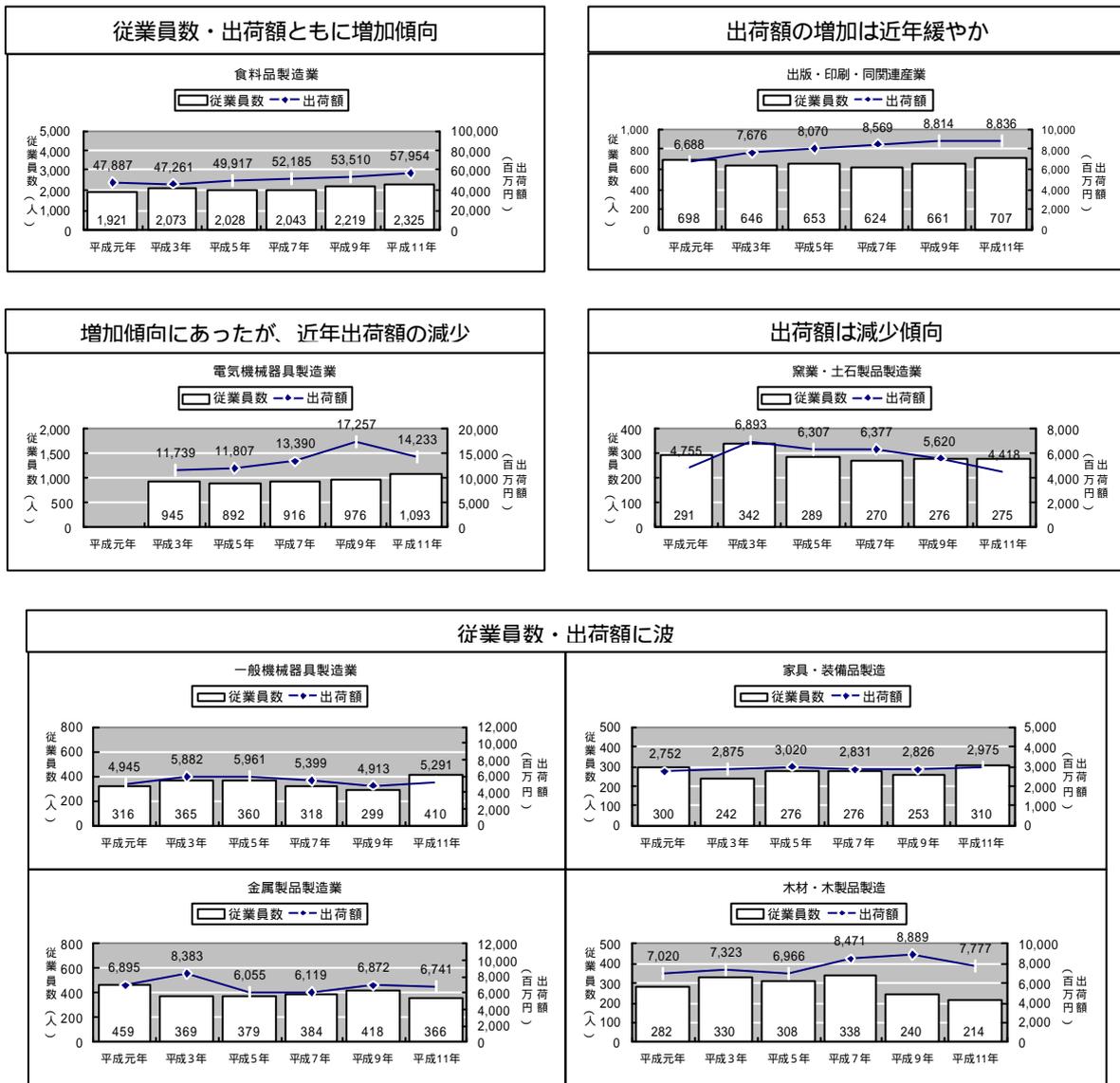
図表 - 業種別従業員数構成 (平成 11 年度)



出所：「工業統計調査」より作成

以下、上位を占める「食料品製造業（36.8%）」から「木材・木製品製造（3.4%）」までの8つの業種の動きを見ることとする。「食料品製造業」は、従業員数・出荷額ともに増加傾向している。「出版・印刷・同関連産業」も増加傾向にあるが、出荷額の増加は近年緩やかである。「電気機械器具製造業」は、増加傾向にあったが、近年出荷額の減少が見られた。「窯業・土石製品製造業」は、従業員数にあまり変化はないが、出荷額は減少傾向にある。「一般機械器具製造業」「家具・装備品製造」「金属製品製造」「木材・木製品製造」は、従業員数・出荷額に波が見られる。

図表 - 従業員数・出荷額の推移

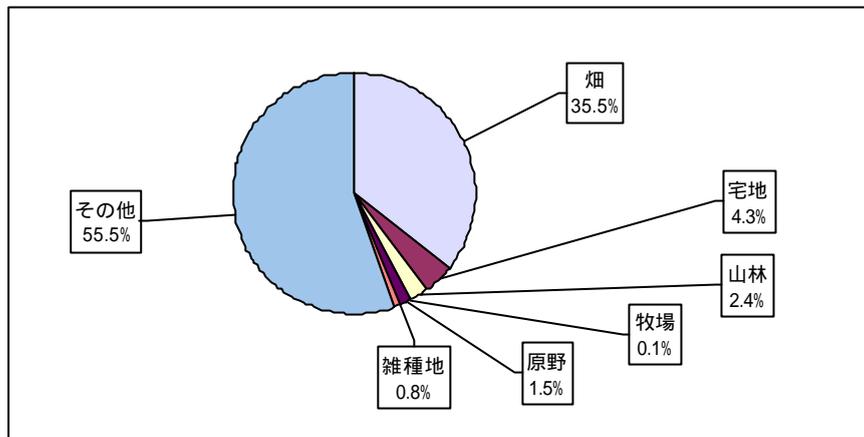


出所：「工業統計調査」より作成

地域構造

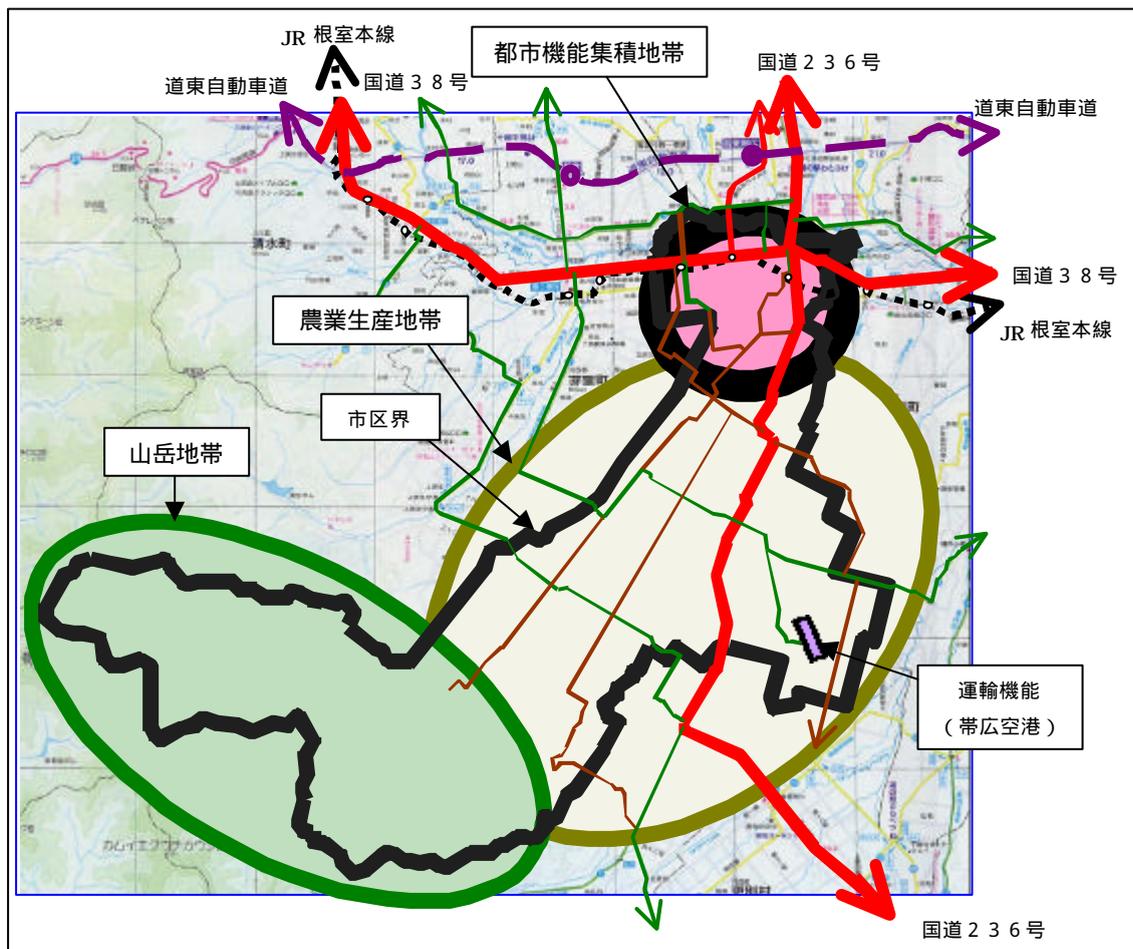
平成 12 年度の地目別面積を見ると、「畑」(35.5%) が最も多く、「宅地」(4.3%) と続く。

図表 - 地目別面積 (平成 12 年度)



出所：「帯広市統計書」より作成

図表 - 地域構造

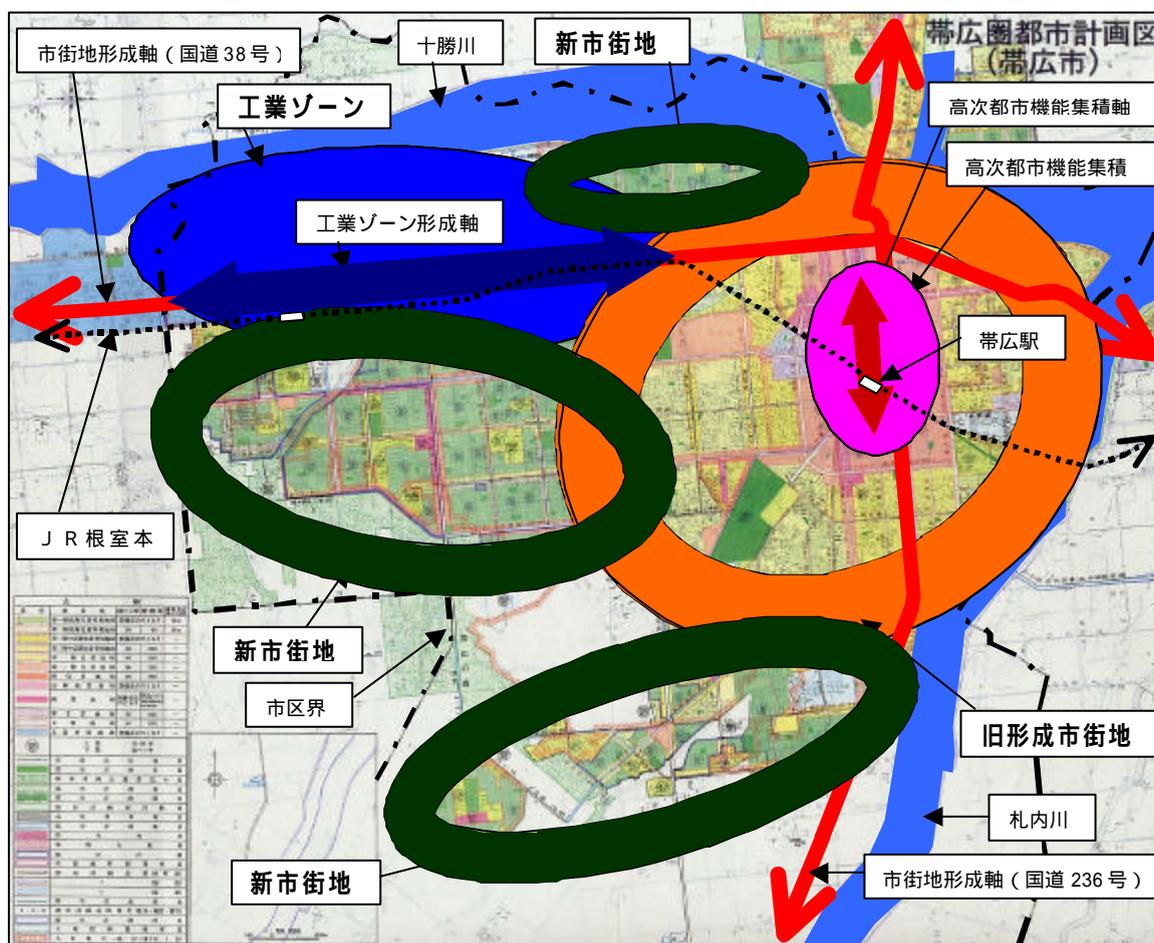


帯広市の地域構造は、北東側が都市機能集積地帯、南西側が山岳地帯、中間部が農業生産地帯で構成されている。

都市機能集積地帯は、十勝川と札内川にはさまれた北東の一带に、広域幹線の国道38号と国道236号を軸として形成された旧形成市街地を基盤に、西側および南側に成長したものである。JR根室本線帯広駅から国道38号に至る一带には、西2条通を軸として高次都市機能集積核の形成が見られる。また、市街地西側には、国道38号を軸とした工業ゾーンが形成されている。

農業生産地帯には、住居および生活基盤施設が分散しており、広域幹線（国道236号）や地域幹線を軸とした利便・サービス施設等の集積はあまり見られない。これは、高次の利便・サービス施設等が分布する市街地が農業生産地帯の居住者にとって、自家用自動車で容易にアクセスできる生活圏域内にあり、日常的な利用が可能なためと考えられる。

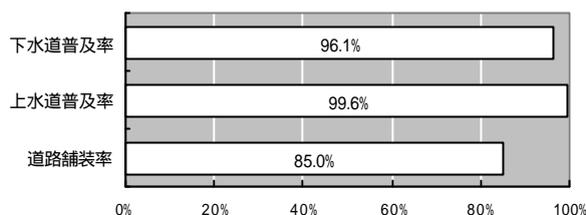
図表 - 市街地の構造



社会資本整備状況

平成 12 年現在、社会資本整備状況は、下水道普及率 96.1%、上水道普及率 99.6% と高い状況にある。また、道路舗装率は、農業生産地帯の未舗装があるため 85.0% であるが、市街地の舗装率は高い。

図表 - 上下水道・道路舗装普及率



上下水道は平成 12 年、道路普及率は平成 11 年の状況。下水道は帯広市調べ。

出所：「帯広市統計書」より作成

公園は、総数 167、総面積 561.71 m² の整備状況にある。住区基幹公園（総数 135、総面積 86.25 m²）は、市街地西側地域（主に第一種低層住居専用地域^{*解説}からなる）での分布が多く、旧形成市街地（主に第一種住居地域^{*解説}からなる）では少ない。都市基幹公園（総数 2、総面積 225.2 m²）は全体の 40%、大規模公園（総数 1、総面積 218.62 m²）は 39% と充実度が高い。

図表 - 公園整備状況（平成 12 年）

	公園数	面積 (ha)
住区基幹公園	135	86.25
街区公園 河南公園など	117	26.75
近隣公園 東公園など	15	36.50
地区公園	3	23.00
都市計画公園	2	225.2
総合公園 帯広の森など	1	50.47
運動公園	1	174.73
大規模公園	1	218.62
緑地	29	31.64
総計	167	561.71

出所：「帯広市統計書」より作成

<p>* 解説</p>	<p>用途地域 <出所：帯広市「帯広の都市計画」より作成></p> <p>都市計画では、将来の都市形成に向けて、市街地における建物を用途ごとに合理的に配置している。</p>			
	<table border="1"> <tr> <td> <p>第一種低層住居専用地域</p> </td> <td> <p>低層住宅の良好な環境を守るための地域。小規模なお店や事務所を兼ねた住宅や小中学校などが建てられる。</p> </td> </tr> <tr> <td> <p>第一種住居地域</p> </td> <td> <p>住居の環境を守るための地域。3,000 m² までの店舗、事務所、ホテルなどは建てられる。</p> </td> </tr> </table>	<p>第一種低層住居専用地域</p>	<p>低層住宅の良好な環境を守るための地域。小規模なお店や事務所を兼ねた住宅や小中学校などが建てられる。</p>	<p>第一種住居地域</p>
<p>第一種低層住居専用地域</p>	<p>低層住宅の良好な環境を守るための地域。小規模なお店や事務所を兼ねた住宅や小中学校などが建てられる。</p>			
<p>第一種住居地域</p>	<p>住居の環境を守るための地域。3,000 m² までの店舗、事務所、ホテルなどは建てられる。</p>			